

八戸地域防災協会 設立総会



会報 防災だより

～創刊号～
2008
VOL.1
9月30日発行

CONTENTS

- | | | | |
|----------------------------|----------|---------------------|-------------|
| 1. 協会設立にあたり | 会長 | 大黒 裕明 | 2P |
| 2. 協会の設立を祝して | 管理者・八戸市長 | 小林 眞 | 3P |
| 3. 協会の活躍を期待して | 消防長 | 金谷 英夫 | 4P |
| 4. 協会設立の経緯・概要 | | | 5P |
| 5. 回想 旧八戸地域広域防火管理者協会 | 名誉会長 | 神山 公佑 | 6P |
| | | 旧八戸消防設備協会 | 会長 北向 幸吉 7P |
| | | 旧八戸市自衛消防連絡協議会 | 会長 吉田 雄一 7P |
| 6. 設立総会・記念祝賀会 | | | 8P |

題字揮毫 大黒会長

協会の設立にあたり



八戸地域防災協会

会長 大黒 裕 明

本年四月、「八戸地域防災協会」が発足して最初の防災だよりをお届けします。

最近、狭い地域に限定された豪雨がよく起こります。これは都市部の過熱化が原因だそうです。また一方では、大空にロケット弾を打ち込み人為的に天候を変えようという試みが行われたそうですが自然界への影響を考慮されているのか不安が起こります。ことによるとそう遠くない将来、従来の気象の知識や経験では予想し得ない現象が多発するのではないのでしょうか。また、頻発する地震は大地の底に人間には把握しきれない力がまだまだ潜んでいることを予感させます。世界は、経済や道徳だけでなく地球そのものが変わりつつあるようですがまだ十分な知見が得られているとはいえません。したがって災害も完全に予測するのは難しいことでしょう。私たちが自分の住んでいる地域を災害から守るためには、もちろんこれまで培ったそれぞれの各別団体での活動がベースになるのは当然のことですが、もっと大きなネットワークからもたらされる新情報や総合力が、今後必要になります。

本協会はそういった状況にも対応できるように統合編成されたわけですが、地域から災害をなくすための、あるいはあっても出来るだけ小さくするための備えを続けて行きたいと念じています。多くの方々のご理解とご協力をお願いします。

本会の仕事として、これまでの旧三団体が行ってきた活動を継承するほかに、防災士の育成が新しく加えられました。防災のための普段の準備、万一のときの避難誘導や応急処置など、災害から人命を守るために大切な知識や訓練を求められる資格です。現在はまだ任意ですが、いずれ国家資格となり設置を義務付けられる団体や施設が出てくるかもしれません。ご興味のある方は当会事務局にお問い合わせください。ご説明申し上げます。

「八戸地域防災協会」はまだ船出したばかりです。どんな活動が相応しいのでしょうか、まずはこの便りの名前、そしてマークの制定など形の部分で、次には中身で、役に立ち参加することが楽しい地域防災活動になるよう、これから皆さんのアイデアをたくさんいただきたいと期待しています。

協会機関紙の名称と シンボルマーク決定

シンボルマーク決定

平成20年7月2日に行われた理事会において、協会機関紙の名称とシンボルマークについて、公募することとなり、機関紙の名称は7月30日、シンボルマークは8月29日締め切りで募集しました。

機関紙の名称には15名から39点の応募があり、8月11日の選考委員会で、八戸市城下にお住まいの湊 久美子様からの「防災だより」が選定されました。又、シンボルマークは10名から17点の応募があり、9月5日の選考委員会で、三



戸町にお住まいの齊藤 智美様の表紙にあるシンボルマークが選定され、賞品としてアイボッドをそれぞれの方に9月10日贈呈いたしました。

これから愛着を持って使用させていただきます。

応募していただきました皆様大変ありがとうございました。

湊さんのコメント

「機関紙の名称の募集」を新聞記事で知り、応募しようと思いましたが。

シンプルで誰にでも理解してもらえる名称をと考え、ふとひらめいた「防災だより」で葉書を出しました。数週間後「採用」との通知を頂き、驚きと同時に大変光栄なことでありました。

「防災だより」の発行により市民の皆様の防災意識の向上に少しでも貢献できますように、心から願っています。とのことでした。湊さん本当にありがとうございます。

八戸地域防災協会 設立を祝して



八戸地域広域市町村圏事務組合

管理者 八戸市長 小林 眞

八戸地域防災協会の設立を心から祝い申し上げます。

このたび統合された、八戸地域広域防火管理者協会、八戸消防設備協会、八戸市自衛消防連絡協議会の三団体におかれましては、これまで消防外郭団体として、独自に防火、防災事業を積極的に推進され、総務省消防庁長官表彰を始めとする数々の表彰を受けられるなど、輝かしい業績を積み重ねてこられました。

この永年に亘る輝かしい軌跡は、協会発展と社会貢献に尽された歴代会長始め会員皆様のご努力とご労苦の賜と、衷心より敬意を表するものであります。

このように実績ある三団体が、効率的な防災活動を展開する趣旨の下に統合され、新組織として八戸地域防災協会の設立の運びとなりましたことは、誠に喜ばしく、関係者各位に対しまして重ねてお祝い申し上げます。

さて、近年の災害状況を見ますと、地震、風水害等の自然災害をはじめ、火災、爆発等の企業災害が全国的にも数多く発生しており、

当市におきましても、7月24日未明に岩手県沿岸北部を震源とする、震度6弱の地震に見舞われており

ます。幸いにも今回は、死者が発生する被害はありませんでしたが、いつ発生するかわからない災害に対し、日頃からの備えが重要であると改めて認識したところであります。当市におきましても、地域と密着した自主防災組織づくりと育成を積極的に推進しておりますが、災害時には、自助はもとより、住民と地域が一体となった「共助」

が大きな力を発揮するものであります。このような「共助」の精神に基づき貴協会が果たす役割は、ますます重要となるものと考えております。

どうか、皆様におかれましては、災害のない安心、安全なまちづくりのために、より一層お力添えを賜りますよう、お願い申し上げます。

八戸地域防災協会の今後ますますのご発展と、会員皆様のご活躍とご健康をお祈り申し上げます。お祝いの言葉といたします。

総会・祝賀会の概要

去る、4月21日17時から八戸グランドホテルにおいて、八戸地域防災協会の設立総会を会員189名が出席し開催された。

事務局から、当協会の経緯について説明があり、続いて旧防火管理者協会の工藤美登副会長が仮議長となり議事進行、議案第一号会則、細則が原案どおり承認されたほか、議案第二号の会長の選任については、推薦により旧防火管理者協会展長大黒裕明氏が満場一致で推挙され初代会長に就任した。

次に、大黒会長が議長となり議事進行、副会長、理事、監事、参与及び専門部長は、会則に基づいた事務局からの報告どおり承認された。議案第三号平成20年度事業計画(案)、議案第四号収支予算(案)は、原案どおり承認された。

総会終了後、管理者八戸市長小林眞氏、広域事務組合議長工藤雄剛氏、金谷英夫消防長など多くの来賓をお迎えし、会員約200名が出席して祝賀会を盛大に開催した。

祝賀会は、花柳葉昌栄様の祝舞のあと、大黒会長、小林市長、工藤組合議長が門出を祝って鏡開きを行うなど大変な盛り上がりとなった。

協会役員

会長	大黒裕友	副会長	佐藤美登	副会長	工藤俊一	副会長	赤田早苗	副会長	小野十三宏	副会長	北山幸吉	副会長	山岸武男	副会長	高橋優	理事	福澤光雄	理事	加藤芳代	理事	田名部喜栄	理事	田谷利通	理事	柳橋秀美	理事	高橋和徳	理事	多田千晴	理事	島浦千徳	理事	中野喜代芽	理事	太田欣一	理事	鈴木啓悦	理事	鈴木雅彦	理事	袖山清隆	理事	高橋雅彦	理事	山子則男	理事	小川洋一郎	理事	小田敏	理事	木村敏	理事	佐々木敏	理事	金藤浩夫	理事	齊藤正	理事	佐藤正	理事	野村治	理事	木村治	理事	野村治	理事	鳥谷富子	理事	富子
----	------	-----	------	-----	------	-----	------	-----	-------	-----	------	-----	------	-----	-----	----	------	----	------	----	-------	----	------	----	------	----	------	----	------	----	------	----	-------	----	------	----	------	----	------	----	------	----	------	----	------	----	-------	----	-----	----	-----	----	------	----	------	----	-----	----	-----	----	-----	----	-----	----	-----	----	------	----	----

八戸地域防災協会

機関紙寄稿文



八戸地域広域市町村圏事務組合

消防本部 消防長 金谷 英夫

八戸地域防災協会としての記念すべき最初の機関誌「防災だより」の発行に際し、寄稿する機会を頂きましたこと大変光栄に存じます。

平成20年4月、これまでそれぞれの活動を継続されてこられた八戸地域広域防火管理者協会、八戸消防設備協会、八戸市自衛消防連絡協議会の三団体が統合し、新たに八戸地域防災協会として再出発されることになりました。大黒会長、北向会長、吉田会長の御英断に対し、深甚なる敬意を表する次第であります。永い歴史と伝統を持ち多くの功績を残してこられた三団体が、今後は有機的に融合し、地域防災への役割を果たされることに大きな期待をしているところでございます。

毎年のように、否、年に複数回発生する大地震、台風等は、人間が営々として築き上げてきた生活文化、産業、財産を一瞬にして破壊してしまいます。大自然の猛威の前に為す術もない状況であります。

しかし、我々人類は、過去の幾度もの大災害から必ず立ち上がり、

復興を遂げて参りました。それは自然現象による災害を防ぐことはできなくても、これによる人的、物的被害の軽減を図ってきたからであります。これは住民一人一人の意識の持ち様に懸かっています。

国内で発生する多くの災害、地球の裏側で発生する様々な災害を、その都度自分の事として捉え、その対応をシミュレーションしておくことが大事であります。

その為国、県を始め我々消防機関もその管轄する区域内において、それぞれ工夫を凝らして活動を展開しております。そして感ずるのは、「自分、又は自分の所は大丈夫」と言う正常化の偏見です。誰がそんな事を保障してくれるのでしょうか。災害は何時何処で発生するかわかりません。こうした考え方を改めない限り、被害の軽減は難しいと思います。こうした考え方で進めて参りました我々の活動を、今まで支えて頂きました三団体が今統合し、新たにそれぞれの専門部会としての特色を活かしながら、地域防災と言う大きな視点に立ち、活動を展開されますこと大変頼も

しく感じております。幼稚園、学校関係、病院、ホテル、物販、工場、福祉施設、危険物施設、電気、管工事業者等様々な業種の持っている防火管理のノウハウ、消防設備・危険物の取扱いについて、各事業所ごとの従業員を始め利用者に対する安全管理指導は、必ずや大きな効果があるものと思います。

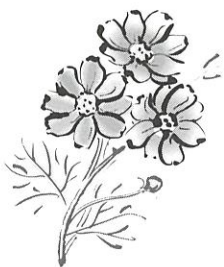
人間は50万年前の第一の火(薪の燃焼)、18世紀後半の第二の火(石炭・石油)を利、活用し、産業を発展させ生活を利用化して来ました。そして今20世紀初頭からの第三の火(原子力)を開発しコントロールしようとしています。人間は忘れる動物でありますから、第一・第二の火も油断や不注意から多くの事故が発生しています。第三の火による事故の規模は計り知れないものがあります。

我々はこうした身近にある火からの事故を防ぐことも大きな仕事であります。事業所における消防用設備の設置、防火管理の徹底も中々為されず、時々大きな事故が発生し、その都度法令改正がされ

ます。「泥縄」とか「いたちごっこ」と言われています。今年6月からは、一般家庭にも住宅用火災警報器の設置が義務付けられました。2年間の猶予期間があり、機会あるごとにマスコミ等を利用し広報活動を行なって参りましたが、その周知度は今ひとつの感があります。

前述したように、災害による被害の軽減は住民自らの意識の持ち様に懸かっています。この意識改革促進の為に、八戸地域防災協会の果たす役割は大きなものがあると思います。どうぞ今後とも我々消防機関と共に手を携えて活動を展開され、御協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに八戸地域防災協会の益々の発展充実と、会員事業所のご隆盛をお祈り申し上げます。



八戸地域防災協会の概要

「設立の経緯」

八戸地域広域防火管理者協会、八戸消防設備協会、八戸市自衛消防連絡協議会の消防外郭三団体は、設立目的が防火防災という観点に立ってそれぞれの立場で地域に根ざした防災活動を続けてきたが、三団体を統合し効率的な活動をして、地域の防災思想の普及に努めようとする気運が高まった。

これを受けて、自衛消防連絡協議会では平成19年8月29日、消防設備協会では平成19年9月13日、防火管理者協会では平成19年9月21日それぞれ役員会を開催し、統合に係る検討委員会を立ち上げるための役員、会長1名、副会長2名を協会毎に選出し、新組織の設立に向けて検討事項を協議することとなった。

会長、副会長による統合検討委員会を、平成19年11月5日に開催し、新組織の名称、組織体制、規約、役員数等を協議した。

その結果、新組織の名称は「八戸地域防災協会」とし、組織の体制としては「防火管理専門部会」「消防設備専門部会」「自衛消防専門部会」の三専門部会制をとること等

会則案を決定した。

その後、平成20年2月に各協会において総会を開催し、統合検討委員会案について新組織への移行を全会一致で了承するとともに、新組織での役員を選出を行った。

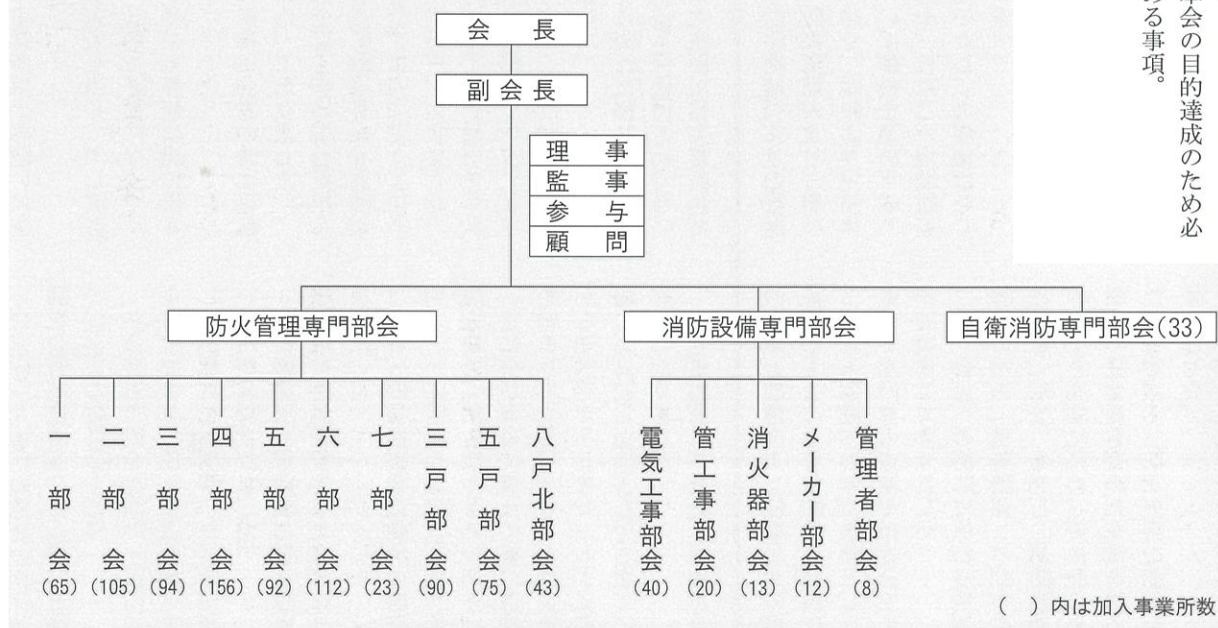
このような経緯を経て、平成20年4月21日八戸グランドホテルに於いて、八戸地域防災協会の設立総会を盛大に挙行了した。

「事業の内容」

- 地域の防火防災思想の普及と高揚に関すること。
- 防火管理の基礎的・総合的な研究に関すること。
- 消防設備の基礎的・総合的な研究に関すること。
- 自衛消防組織の基礎的・総合的な研究に関すること。
- 災害発生時の相互協力に関すること。
- 防災機器等の寄贈に関すること。
- 防災活動に積極的にあたり功労のあった個人又は団体の表彰に関すること。

○その他本会の目的達成のため必要と認める事項。

協会の組織（加入数981事業所）



平成二十年度 事業計画

- 一 災害時要援護者支援事業
 - (一) 住宅用火災警報器寄贈事業
 - (二) 消火器の寄贈、燃焼器具設備等の点検修理
- 二 防火防災思想普及事業
 - (一) 火災予防運動用ポスターの配布
 - (二) 各種防火チラシの作成
- 三 研修
 - (一) 消防用設備等の研修
 - (二) 各種施設等の見学
 - (三) 講演会の開催
 - (四) 消火訓練の実施及び各種訓練への参加
 - (五) 救命講習の実施
 - (六) 防災士の養成
- 四 機関紙の発行
- 五 消防関係資格取得講習会等の後援及び情報提供
 - (一) 防火管理者資格取得講習会の後援及び実施の周知
 - (二) 甲種防火管理者再講習の後援
 - (三) 消防設備士試験、事前講習会等の情報提供
- 六 幼年・少年・婦人消防クラブの育成援助
- 七 加入促進事業の推進



回想

旧八戸地域広域防火管理者協会
名誉会長 神山公佑

会員の皆様には益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

会長を退任してから早いもので1年4カ月経過いたしました。

大黒会長のもとと防管は益々充実していることが伺われます。

私が入会したのは昭和50年頃だったと思います。

当時は近藤初代会長の時代で主な事業は「職場と家庭の防火大会」で神明宮の前から中心街をパレードし公会堂で式典アトラクションを行っておりました。

年会費が三千元〜四千元で活動

の他に幼年、少年、婦人、青年クラブの育成と活発に事業展開をしておりました。

加入事業所も500弱で常に資金不足の状態でありました。

防火大会のプログラムに広告を取ることを理事会で決定し、いざ行動となると集まるのは理事の茶屋さん、小向さんと私の3名だけで各事業所をまわり協賛していただきました。5年から6年続けたと思われまます。

更に防管会員募集のため数日か

けて100事業所以上お願いにまわりました。

あえて個人名を出して申し訳ありませんが3名で必死になって歩いたことが今でも鮮明に思い出されます。

二代目権沢和子会長の時には私は副会長になっておりました。

姉妹協会であります枚方寝屋川防火協会との交流も深まり相互訪問が

活発に行われましたが、迎えるための交際費の捻出に苦心いたしました。

権沢会長は志半ばに急逝され、私が三代目会長に就任いたしました。

真先に考えたことは財政の健全化でありました。

どのように実行に移したら良いのか、会費の値上げ幅はどのくらいが妥当か枚方寝屋川協会を訪ねて

年会費のこと、更に両協会の相互訪問を会費制にするなどの賛同を得て、理事会に計りました。

年会費五千元を倍額の一万円にする訳ですから色々な意見が出ましたが趣旨をご理解いただき倍額一万円が承認されました。

会員事業所も飛躍的に増え思う様な事業を展開できるようになりました。

弱者への支援事業自動消火器寄贈。そして防災フェスタの開催、消防を取巻く消防団や各外郭団体が

一堂に会し有事に備えて横の連携を密にし火災だけでなく、自然災害から地域を守るをモットーに実施し、行政から補助金もでるまでに盛んになりました。

これを契機として外郭三団体が合

の知識と技術向上、社会公共の福祉に資することを目的に、会員による老人家庭への奉仕活動として電気や水回りの点検や指導を三十二年間実施して参りました。

又、会員への消防に係わる情報提供のため「消防情報」の配布や機関紙「曙光」を発行し消防意識の向上と周知に務め、更に会員事業所の従業員も含めた交流を図るため毎年ボーリング大会を開催してきました。

三十三年間先輩諸兄が築き上げてきました。

併し八戸地域防災協会が結成されましたことは誠に喜ばしい限りです。

総会時に於ける無火災地域の表彰などにより市民に防災の輪が拡がりつつあります。

この様な事業が中央に認められ「防災まちづくり大賞 理事長賞」授与の榮に浴しました。

想出はつきませんが14年間会長を務め会員の皆様に支えられ楽しく任期を全うすることができました。心から感謝申し上げます。

退任後現在どんな活動をしているのか気になりますが情報がなかなか入って来ません。

勝手なお願ひですが「防災だより」ぐらいは見たいと思ひます。八戸地域防災協会の益々のご発展を祈念し挨拶と致します。

てきた当初の目的を着実に果たし、これからは八戸地域防災協会の会員として、又消防設備専門部会の一員として地域住民の安心、安全の為に貢献することが責務であると存じております。

結びに、八戸地域防災協会が会員一同結束のもと、地域社会の安全と社会公共の福祉の増進に大きく寄与されますようお願いいたします。挨拶といたします。

旧八戸設備協会
会長 北 向 幸 吉

地域防災活動の充実



八戸地域防災協会の設立をお慶び申し上げます。

災害を軽減するのは日頃からの防災意識と活動によることが大きいことは言うまでもありませんが、関係団体の連携も欠かすことができません。

これまで消防外郭三団体である「八戸地域広域防火管理者協会」「八戸消防設備協会」「八戸市自衛消防連絡協議会」はそれぞれの立場における防災の目的をもって活動を

続けてまいりました。多様化する社会や安全、安心の求められる今



「旧自消連」の活動を振り返って

旧八戸市自衛消防連絡協議会
会長 吉田 雄一

貴協会の創刊号の発刊にあたり、「旧自消連」の活動の一端を振り返ってみました。

当協議会は、今年40周年を迎えることになっておりましたが4月に発足しました貴協会の新生「自衛消防専門部会」として生まれ変わり、新たに出発することになりました。

当協議会の生い立ちは、終戦後の経済の進展により全国的に石油施設の整備と大型化が進む中、相次ぐ大災害や石油類の漏えい事故が発生し、これに対処するため昭和41年5月、関連17事業所で「相互応援体制」を確立し、昭和43年4月、消防相互援助協約加入事業所20社によって「八戸市自衛消防連絡協議会」が発足しました。

当協議会は、石油類危険物の大量取扱事業所をはじめ、石油類の運送業務事業所、ガス類取扱事業所・工場等で構成されており、会員事業所数は創立30周年当時には40社に達しておりましたが、経済の低迷等による事業所の統合・廃止等により現在は35社ほどに留まっ

ており、会員を増員することが今後の課題でもあります。

当協議会の事業目的である「災害時の相互援助」、「知識、技術の習得及び訓練」、「災害予防のための研究、情報交換」等は、これまでの事業活動を通して会員の相互理解のもと脈々と浸透して参りました。その1つに毎年実施している「視察研修」があります。県内はもとより隣の岩手県まで出向き、備蓄・エネルギー関連事業所等の消火施設等を見学し知識、技術の習得に取り組んで参りました。また、同時に会員相互の情報交換の「場」であり、親睦を深めることが災害防止に向けての第一歩であり原点であると感じております。

会員事業所の結束のもと、青森県総合防災訓練をはじめとする石油コンビナートでの防災訓練への参加は、有事を想定した組織力の強化に繋がるものでした。

そのほか平成6年から普通救命講習会を実施し、これまで延べ約500名の方が受講をされ、平成17年からはAEDの使用法も併せ

て習得していただいております。

この「普通救命講習会」も「視察研修」「防災訓練」等と並び、当協議会の目的に照らして重要な位置付けであると考えております。私が当協議会に携わって一番印象深いのが、創立30周年の記念事業であります。当記念事業を間近に控え当時の増田会長が突然転勤されることになり、臨時総会を開いて当時の小井川副会長に快く会長職をお引き受けいただき、関係各位のご理解とご協力により無事創立30周年の節目を祝うことができたことです。特に当時事務局を担当しておられた榊田警防課長、中村課長補佐には、改めて衷心より感謝とお礼を申し上げます。

さて、今後は八戸地域防災協会の「自衛消防専門部会」として旧自消連創立時の理念を想いお越し、会員事業所からの防災防止に努めるとともに会員相互の連携を密にして、安全な事業所、安心して暮らせる街づくりのため邁進されるよう切望します。

結びに貴協会の新たな出発の年にあたり、会員のますますのご隆盛と安全な地域づくりにご貢献されますようご祈念申し上げます。



旧三協会の軌跡

八戸地域広域防火管理者協会

設立年月
昭和四十二年四月

設立趣旨

事業所における防火管理の向上並びにこれに起因する災害予防に努めると共に、会員相互の融和と親睦をはかり、もって各事業所の健全なる発展と社会公共の福祉の増進に寄与する。

主な活動

- ① 住宅用防災機器等の寄贈
- ② 防火管理者の教養研修
- ③ 防災フェスタなどの開催

特記事項

- ① 消防庁長官表彰受賞
- ② 日本顕彰会表彰受賞
- ③ 枚方市寝屋川市防火協会連絡協議会と友好姉妹協会締結
- ④ (社)日本善行会「善行表彰」受賞
- ⑤ 防災まちづくり大賞消防科学総合センター理事長賞受賞



八戸消防設備協会

設立年月
昭和五十年十月

設立の趣旨

消防設備に関する業界の繁栄と、これ等の業務に携わる従業員の知識の向上を図り、消防設備に係る業務の完璧を期し、社会公共の福祉に資する。

主な活動

- ① 消防用設備等に関する情報、知識の普及
- ② 老人家庭等に対する奉仕活動

特記事項

- ① 青森県消防功労団体県知事表彰受賞
- ② 消防庁長官安全功労賞受賞
- ③ 八戸市善行者表彰受賞
- ④ 三戸郡町村会感謝状受領
- ⑤ 防災まちづくり大賞消防科学総合センター理事長賞受賞

八戸市自衛消防連絡協議会

設立年月
昭和四十三年四月

設立の趣旨

自衛消防に関して各事業所相互の融和と強調を図り、火災予

防と消防に関する技術の研鑽を行い、災害を防止して自衛消防の健全なる発展と社会公共の福祉増進に寄与する。

主な活動

- ① 自衛消防組織連携による総合消防訓練
- ② 自衛消防組織の改善指導
- ③ 自衛消防の防火に関する研究発表及び情報・資料の交換

特記事項

- ① 加入事業所により消防相互応援協定締結
- ② 各事業所従業員の教育の一環として普通救命講習開催
- ③ 防災教育用資材寄贈により八戸市長より感謝状受領

予防課紹介

四月一日の定期異動により、消防本部予防課が次のとおりとなりました。

- 岩間 祥郎 (課長)
 - ◎田端 民夫 (課長補佐)
 - 四戸 一保 (副参事)
 - 山内 秀夫 (設備指導班長)
 - 田名部 尚 (保安調査班主査)
 - 菊地 潤 (設備指導班)
 - 佐藤 和人 (設備指導班)
 - 宮本 伸利 (保安調査班)
 - ◎齊藤 智美 (協会職員)
- ※◎は、防災協会の事務局を担当しています。

今後ともご指導、ご協力の程よろしくお願ひ申し上げます。



総 会



大黒会長就任挨拶

総
会



鏡 開 き



管理者 小林市長祝辞

祝
賀
会



花柳葉昌栄祝舞



乾 杯



懇 親 会



懇 親 会